

トルコ為替週報

2021年8月24日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き>

(8月17日～8月23日)

USD/TRY: 8.3900～8.5570

TRY/JPY: 12.80～13.02 (参照値)

過去1週間のトルコ・リラ相場は、方向感を欠いた横ばい。その値動きの大半はドルの上下動によるもので、主要通貨や新興市場通貨全般に対するドルの値動きとほぼ一致していた。唯一の例外が17日のリラ高先行だったが、この局面のリラ上昇の要因は、残念ながら特定できなかった。週末(20日)に掛けてのドル全面高の要因としては、引き続き、米金融緩和縮小(テーパリング)早期着手観測や、中国による規制強化策、アフガニスタン情勢など、さまざまな要因をごちゃまぜにした「世界景気減速懸念」「リスク回避のドル買い」「有事のドル買い」などと言われた。株価全般や原油など資源価格全般が明確に水準を切り下げ、ドル高と並行して円高も進行していた経緯から、リスク回避の流れが金融市場に広がっていたと考えるのは、相応に妥当な判断と思われた。一方で、株価全般やプラチナ、銅、アルミニウムなど産業金属(プラチナは一般に貴金属と目されることの方が多いため、ここも金は底堅さとの比較で、産業需要の大きな貴金属と位置付けられる傾向が強かった)の反発の兆しは、20日のうちに既にはっきりと表れており、ドルの底打ち反発とは若干の時差があったように思われた。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/23	8:00	外国人観光客(前年比)	7月	+367.0%		+853.4%

<向こう2週間の見通し>

(8月24日～9月6日)

USD/TRY: 8.390～8.630

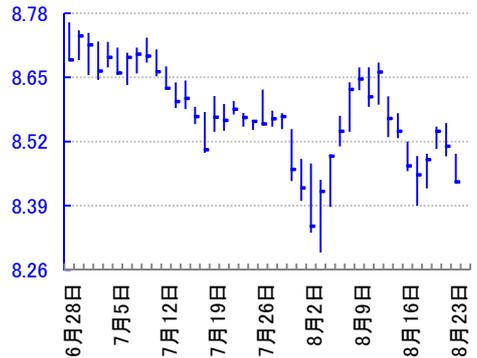
TRY/JPY: 12.80～13.10

向こう2週間のトルコ・リラ相場は、方向感の交錯した横ばいから、最終的にはリラ下落を警戒する。先週の値動きがそうであったように、足下、通貨市場の動向はドル次第の様相を色濃くしている。そのドルの今後を見据える上で、市場の関心は26～27日のカンザスシティ連銀経済シンポジウム(における27日のパウエル米連銀議長の講演)に集まっていると言えよう。市場は、6割方以上、年内のテーパリング着手を織り込んでいるものと思われ、同議長演説にも、その「予告」めいたものを期待している。となると、より大きな値幅が出るのは「金融緩和縮小が市場の想定よりも大幅に先送りになり、ドル軟調に転じる」方向ということになるのではないかと。市場の織り込み具合によっては、仮に年内のテーパリング開始が示唆されたとしても、「予想で買って、事実で売る」ドル調整安の可能性も考えられよう。いずれにせよ、このイベントの片がつくまでは、ドルが明確な方向感を打ち立てる可能性は低いように思われる。一方で、リラの反発を積極的に見込めないのは、現在のトルコが置かれた政治/経済情勢に不透明感、と言うよりも不安感が拭えないから。トルコは、ある種、「構造的」にコロナ禍抑制に失敗してきた面もある。エルドアン大統領と与党公正発展党(AKP)の支持基盤が、地方の、労働者階級に広く(都市部の大企業勤務のオフィス労働者よりも)、厳密な行動制限措置の強行が難しかったとの見方だ。加えて、水害、山火事(正反対の自然現象に見えるが、何れも地球温暖化の影響)などの天然災害が追い討ちをかけ、今般、アフガニスタン状況が移民流入による混乱とトルコとタリバンの関係性という地政学的リスクとを高めている。3日のトルコ8月CPIは、政策金利(19.00%)を超える強い伸びを示す可能性も十分にあると思われる(8月でなければ、9月、もしくは10月にも超える可能性は高いと言える)。トルコ中銀が、政策金利を物価よりも高い水準に保つと宣言している以上、9月23日の金融政策委員会では、利上げの可能性すら考慮すべきと思われるものの、現在まで、市場の思惑は、精一杯抵抗したとしても「政治圧力に屈しない=金利据え置き」でほぼ固まっている。

<向こう2週間に発表予定の主要経済指標等>

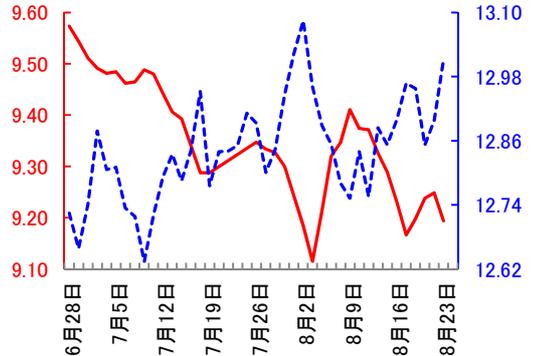
月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/25	7:00	設備稼働率	8月			76.7%
8/31	7:00	貿易収支(USD)	7月			-2.85bn
9/1	7:00	GDP(前年比)	Q2			+7.0%
9/3	7:00	CPI(前年比)	8月			+18.95%

USD/TRYの推移(日足/ロンドン 7:00～17:00)



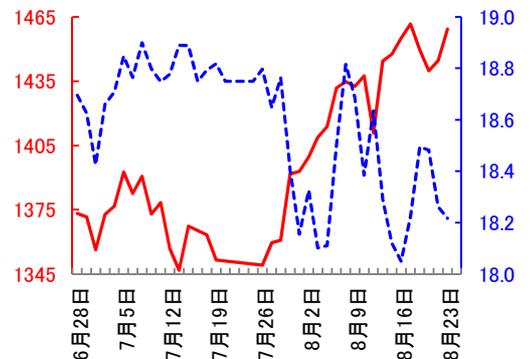
バスケット/リラの推移(トルコ中銀公示)

リラ/円の推移(ロンドン 17:00)



株式市場の推移(ISE 100種指数)

長期金利の推移(5年スワップ金利)



(資料:トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レポ金利		19.00%
成長率(GDP/前年比)	Q1	+7.0%
失業率	6月	10.6%
消費者物価(前年比)	7月	+18.95%
鉱工業生産(前年比)	6月	+23.9%
小売売上高(前年比)	6月	+17.4%
貿易収支(USD)	6月	-2.85bn
経常収支(USD)	6月	-1.13bn

<お知らせ>

英休日のため、次回の「トルコ為替週報」は9月7日の発行を予定しております。ご迷惑をお掛けしますがよろしくご諒承ください。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。